

1. 安城市の都市計画を取り巻く、いまとこれからの課題

本計画では、「国土のグランドデザイン2050」、「都市再生基本方針」などの時代潮流からみた“これから”の都市づくりの方向性や西三河都市計画区域マスタープランに即すため「愛知の都市づくりビジョン」による“地域性”との整合を確認しながら、本市の最上位計画である第9次安城市総合計画における「ともに育み、未来をつくる しあわせ共創都市 安城」の目標実現のために整理する“3つの重点戦略”と“目標とするまちの姿”を踏まえ、都市づくりの方向性を横串的にとらえました。総合計画では、持続可能な開発目標（SDGs）やウェルビーイング、ニューノーマルといった社会情勢を踏まえており、本計画においても、こうした社会情勢の変化に対応しています。

全国社会背景

愛知県の社会背景

時代潮流・地域性からみた“これから”の都市づくりの方向性

時代潮流からみた“これから”の都市づくりの方向性

1. 集約型都市構造への転換

-機能集積の高い都市づくり-

2. 既存社会資本ストックの最大活用と適正管理

-都市運営コスト削減の都市づくり-

3. 公民連携、民間活力の活用

-市民参加の都市づくり-

4. 産業競争力の強化、産業立地等民間投資の誘発

-力強く発展を続ける都市づくり-

5. 地域資源を活かした交流の促進・拡大

-観光交流・市民交流を促す都市づくり-

6. 子育て環境の充実、健康寿命の延伸

-誰もが生き生きと暮らせる都市づくり-

7. 自然災害等に備えた安全安心の確保

-安全・安心の都市づくり-

8. 魅力ある都市景観の形成

-都市の個性を発揮する景観まちづくり-

9. 地球温暖化対策への貢献

-環境負荷の小さい都市づくり-

地域からみた“これから”の都市づくりの方向性 愛知の都市づくりビジョン-都市づくりの基本方向-

①暮らしやすさを支える集約型都市構造への転換

- ・歩いて暮らせる生活圏の形成や効率的な都市経営等に向けた集約型都市構造への転換
- ・多核連携型のネットワークの形成・充実
- ・既存ストックの活用など効率的な都市経営
- ・散在する集落地等での生活利便性やコミュニティの維持
- ・子どもを安心して産み育てることのできる社会の実現に向けた福祉施策との連携・調整

②リニア新時代に向けた地域特性を最大限活かした対流の促進

- ・様々な対流の促進によって都市の活力を高め、賑わいを創出
- ・魅力ある都市空間、景観づくり等による賑わいの再生

③力強い愛知を支えるさらなる産業集積の推進

- ・力強い愛知を支える産業集積を推進
- ・広域幹線道路ネットワーク等による経済活動の効率性の向上や生産力の拡大

④大規模自然災害等に備えた安全安心な暮らしの確保

- ・大規模自然災害等の発生に備えた安全安心な暮らしの場の確保
- ・誰もが安全安心に移動できる都市空間の形成

⑤自然環境や地球温暖化に配慮した環境負荷の小さな都市づくりの推進

- ・まとまりある森林、農地の保全
- ・建築物の低炭素化や緑地の保全・緑化の推進などを総合的に実施



ここで、時代潮流・地域性からみた安城市における“これから”の都市づくりの方向性を、5つからなる今後重視すべき都市づくりの視点（＝課題整理の視点）にまとめました。これは都市づくりにおける5つの視点として「5T（都市、つくる、創る）」と呼び、「みんなでまちをつくる」視点である都市構造、「みんなでまちをつかう」視点である都市経営、「みんなで活きる力をつくる」視点である都市活力、「みんなで安心をつくる」視点である都市生活、「みんなで心地よさをつくる」視点である都市環境の5つで構成し、この視点ごとに安城市の都市計画を取り巻くいまとこれからの課題をまとめていきます。

安城市の方向性

安城市における“これから”の都市づくりの方向性

第9次安城市総合計画-ともに育み、未来をつくる しあわせ共創都市 安城-

各分野の目指すまちの姿と主な施策

- 1. 子育て** 社会全体で子育てを支え、子どもが誰一人取り残されず健やかに成長できるまち
施策：安心して産み育てられる環境の整備、保育環境の充実、等
- 2. 学校教育** 次世代を担う子どもの知・徳・体の調和のとれた子どもを育むまち
施策：主体的・対話的で深い重視した次世代を担う児童生徒の育成、豊かな心やたくましい体の育成と健康教育の推進、等
- 3. 福祉** 孤立することなく共に支え合い、安心して生活できる地域共生のまち
施策：地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の整備、高齢者への支援体制の深化、等
- 4. 市民参加と協働** 性別や国籍などの多様性を認め合い、市民一人ひとりが自分らしく輝き、活躍できるまち
施策：市民参加及び市民協働のまちづくりの推進、男女共同参画と多文化共生の推進、等
- 5. 農業** 生産基盤の整備や経営基盤の構築などの活動を推進し、農業が持続的に発展するまち
施策：担い手の育成及び確保、地域の特性を生かした多様な農業支援、等
- 6. 商工業** 商工業がバランスよく発展し、市内経済の活性化と豊かな市民生活が実現するまち
施策：商業の振興、ものづくり産業の振興、等
- 7. 観光・交流** 地域資源を最大限活用した積極的なシティプロモーションによって交流人口、関係人口が拡大するまち
施策：観光資源の活用、観光資源の充実、等
- 8. 文化芸術** 主体的に文化芸術活動を行うことで、心の豊かさと幸せを実感するだけでなく、地域への誇りを育むまち
施策：文化芸術活動の活性化、歴史資源の保存と活用、等
- 9. 健康・医療** 心身の健康への意識を高め、生涯を通じて健康づくりに取り組み、健やかに自分らしく生活できるまち
施策：健康づくりの機会の拡充、継続的な健康づくりのできる体制整備、等
- 10. スポーツ** 気軽にスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康で活力あるくらしができるまち
施策：「する」・「みる」・「おしえる」・「ささえる」スポーツの振興、スポーツ施設環境の整備、等
- 11. 生涯学習** 新たな価値観や行動を生み出すことができるよう生涯学習環境が充実したまち
施策：多様なニーズに応じた学びの機会の提供、学びの成果を地域に生かすつながりづくり、等
- 12. 都市基盤** 誰もが集い交流し、日々の生活を楽しむとともに、安全で快適な暮らしができるまち
施策：主要駅周辺の快適な交流空間の形成と活用、安全かつ利便性の高い市街地の形成、等
- 13. 住環境** 人と自然がふれあい、快適に住み続けられるまち
施策：市民に親しまれる公園づくり、緑をつくる、等
- 14. 防災・減災** 災害に対して強さとしなやかさを備えたまち
施策：災害時の対応・連携強化、消防団や自主防災組織の充実強化、等
- 15. 生活安全** 安全・安心に暮らすことのできるまち
施策：暮らしの安全対策の推進、交通安全対策の実施、等
- 16. 環境** 人と自然が共生する良好な環境が持続的に発展するまち
施策：生活環境保全、資源循環・ごみ減量、等

今後重視すべき 都市づくりの視点

視点1 都市構造

まちを
つくる

視点2 都市経営

まちを
つかう

視点3 都市活力

活きる
力をつくる

視点4 都市生活

安心を
つくる

視点5 都市環境

心地よ
さをつくる

2. 都市づくりの基本的課題

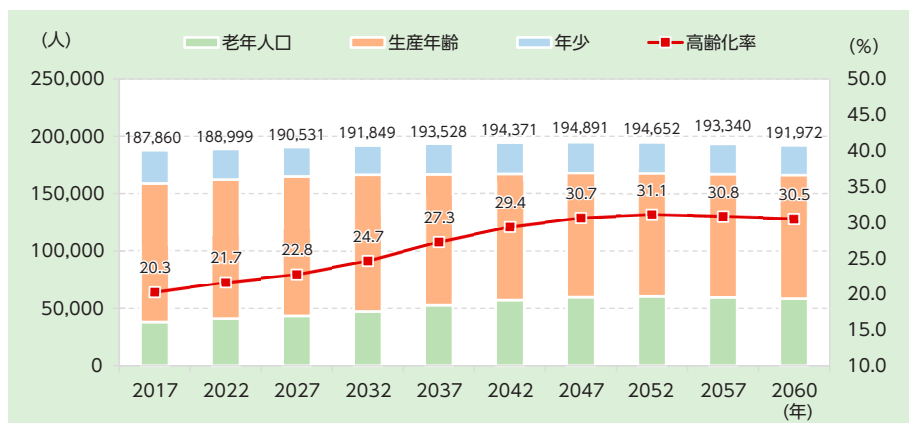
「今後重視すべき都市づくりの視点」の5Tの下、今後の都市づくりにおける課題を整理しました。ここでは、安城市を取り巻く機会や脅威（外的要因）を視野にいれながら、都市計画基礎調査を始めとする都市計画の実態調査により明らかとなった安城市の強み、弱み（内的要因）を把握し、基本的課題をとりまとめました。

視点1 都市構造

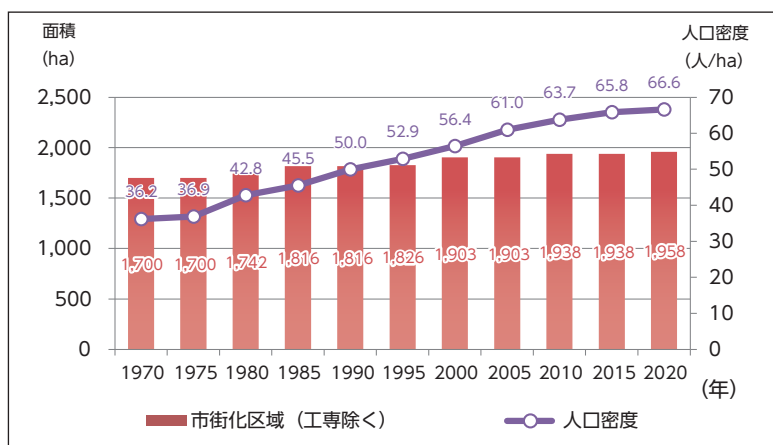
まちを
つくる

◎安城市の強み

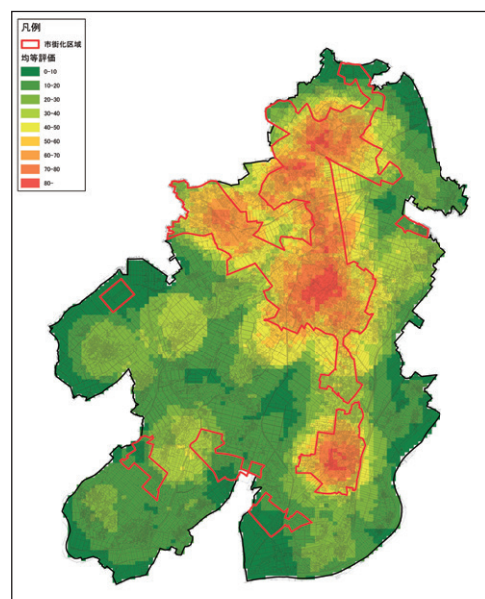
- ①人口・世帯数は増加で推移、今後も緩やかな増加が継続する見込みと想定されます。
- ②駅を中心とした市街化区域への人口集積が進み、主要駅周辺（JR安城駅、新幹線三河安城駅、名鉄新安城駅、名鉄桜井駅）で人口密度が高まっています。



図① 将来人口の展望（第9次安城市総合計画）



図② 市街化区域面積と人口密度の推移（都市計画基礎調査）

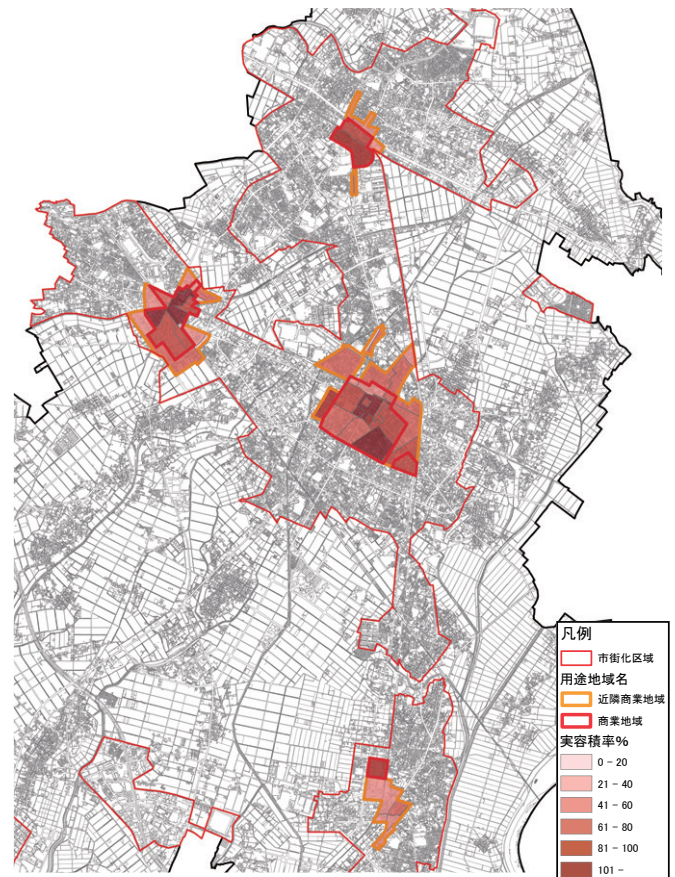


図③ 生活利便施設集積点マップ（都市機能増進施設の集積現況評価）

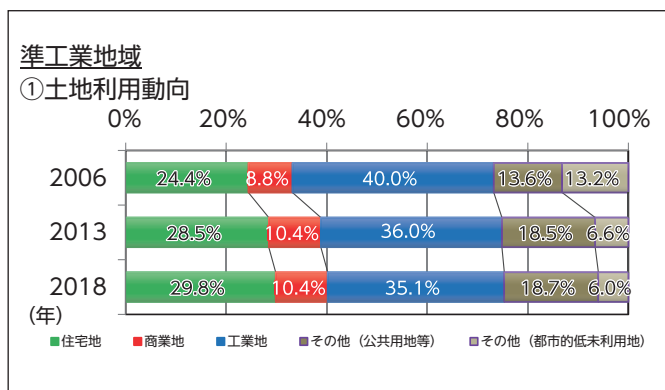
- ③高齢者数の増加に伴い高齢化率が上昇しているものの、生活利便施設が歩いて暮らせる生活エリアに立地しています。
- ④JR東海道新幹線、JR東海道本線、名鉄名古屋本線、名鉄西尾線の4路線により鉄道網が形成されています。（鉄道を軸とした都市構造）
- ⑤名鉄バス（2路線）、あんくるバス（11路線）により、バス交通網が形成されています。
- ⑥教育施設の徒歩圏域が市全域をおおむねカバーしており、子育てしやすい環境を形成しています。
- ⑦年少人口はこれまで横ばいに推移しており、人口ビジョンでは今後もおおむね横ばいで推移しています。
- ⑧24時間利用可能なシェアサイクル事業を実施しています。
- ⑨明治用水緑道を活用した自転車ネットワークの整備が進行しています。

●安城市の弱み

- ①準工業地域では工業地が減少するとともに特に住宅地の土地利用が増加し、住商工の混在が進んでいます。
- ②商業系用途地域における実際の容積率は主要駅周辺で高いものの、容積充足率はほとんどの地区が5割以下となっています。
- ③用途地域と土地利用構想の不整合が全体の約1割であり、住居系土地利用構想がその多くを占めています。
- ④都市的低未利用地のうち、約7割が住居系用途地域内に存在しています。
- ⑤市街化調整区域における既存集落の周辺でスプロール化が進んでいます。
- ⑥大規模既存集落外縁部で人口・世帯数が増加する一方で、大規模既存集落内で人口・世帯数が減少し、高齢化が進行しています。



図② 商業系用途地域における実容積率
(都市計画基礎調査)



図① 準工業地域の土地利用動向
(都市計画基礎調査)

「まちをつくる 都市構造」分野における基本的課題…市街地規模の適正化、機能の適正配置、公共交通体系の充実 等

安城市の強みから、【強みを伸ばす考え方】

- ・将来の人口減少社会を見据えつつ増加する人口を受け止める新たな住居系市街地の形成及び市街地内の主要駅周辺における人口集積の強化
- ・市街地人口密度の維持・上昇による市街地内に広く立地する生活利便機能の維持・充実
- ・利用者が増加する公共交通網の維持・サービス水準の強化
- ・歩いて暮らしやすいまちづくりに向けた歩行者・自転車ネットワークの拡大・機能充実

安城市の弱みから、【弱みを克服する考え方】

- ・主要鉄道駅周辺での居住・都市機能の集積強化
- ・高齢者や子育て世代を始め誰もが便利に日常的サービスを楽しむ生活圏の再構築
- ・現況土地利用と用途地域と土地利用構想の不整合の解消
- ・市街化調整区域における無秩序な開発、都市機能立地の抑制
- ・大規模既存集落における集落環境の改善

視点2 都市経営

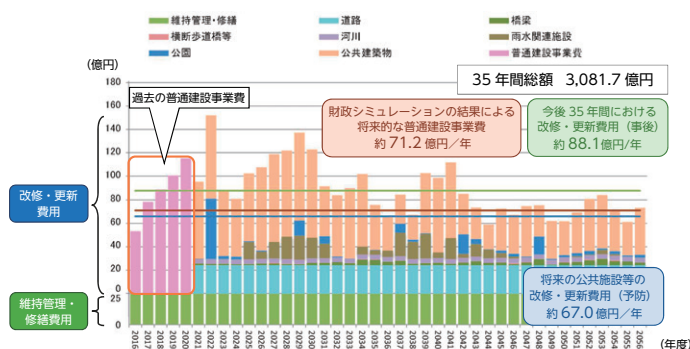
まちをつかう

◎安城市の強み

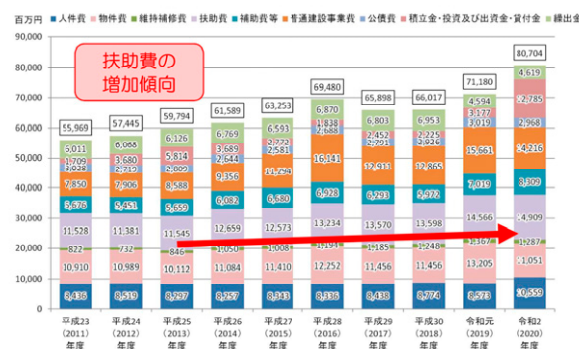
- ①財政力指数が1以上、かつ経常収支比率は80%前後で推移しており、健全な財政を維持しています。
- ②都市計画道路は概成済を含めた整備率が約8割となっています。(行政区画)
- ③都市公園は全国や県平均と比較して整備水準は低いものの、整備は進んでいます。
- ④南明治地区では、土地区画整理事業の円滑な実施に向けた啓発やまちづくり活動を実施されています。
- ⑤名鉄桜井駅周辺地区では、まちづくり憲章やまちなみ景観ルールを定め、住みよいまちづくりを住民が主体となって実施されています。

●安城市の弱み

- ①公共施設の維持更新費等は、今後増加することが予測されています。
- ②今後の高齢化の進展に伴う扶助費等の増加及び生産年齢人口の減少に伴う歳入の減少が予測され、今後増加する施設老朽化対策や維持、更新費用に十分な費用がかけられなくなることが予測されています。
- ③既に整備した公共空間の活用が十分に進んでいない状況です。



図① 公共施設等（一般会計ベース）の更新等費用の試算
(安城市公共施設等総合管理計画(R4改定))



図② 歳出決算額の推移
(安城市公共施設等総合管理計画(R4改定))

「まちをつかう 都市経営」分野における基本的課題…社会資本ストックの長寿化・利活用、担い手づくり 等

安城市の強みから、【強みを伸ばす考え方】

- ・安城市ならではの、現在の豊かな財政力を活かした個性あるまちづくり
- ・安城市民ならではの、これまでの住民主体のまちづくり実績を活かした基盤施設や公共建築物等の維持管理・利活用に対する住民や民間事業者との協働化の促進

安城市の弱みから、【弱みを克服する考え方】

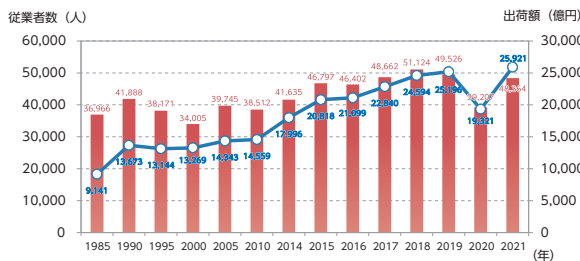
- ・将来の人口減少や社会資本ストックの長期的な維持管理コスト等を見据えた住居系市街地規模の適正化
- ・老朽化するインフラ施設に対する効率的な修繕・更新等の実施、長寿化による更新コストの削減
- ・必要な公共サービスの維持と施設量の適正化の両立
- ・駅前などの既存の公共空間のインフラの活用

視点3 都市活力

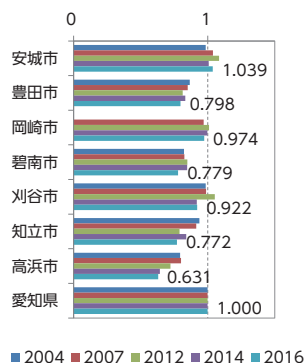
活きる力
をつくる

◎安城市の強み

- ①製造品出荷額等は増加傾向にあり、製造業が盛んとなっています。
- ②小売業の事業所数、販売額、従業者数、売り場面積ともに周辺都市と比較して高い水準であり、自市内だけでなく他都市からも買物客が流入しています。
- ③名鉄桜井駅周辺地区では、まちづくり憲章やまちなみ景観ルールを定め、住みよいまちづくりを住民が主体となって実施しています。
- ④名古屋から新幹線により10分で到達します。(リニア開通後、東京からも60分アクセス圏になります。)
- ⑤観光入込客数は、コロナ禍以前は安城七夕祭りで100万人/年以上、デンパーク及び堀内公園がそれぞれ約50万人/年となっています。



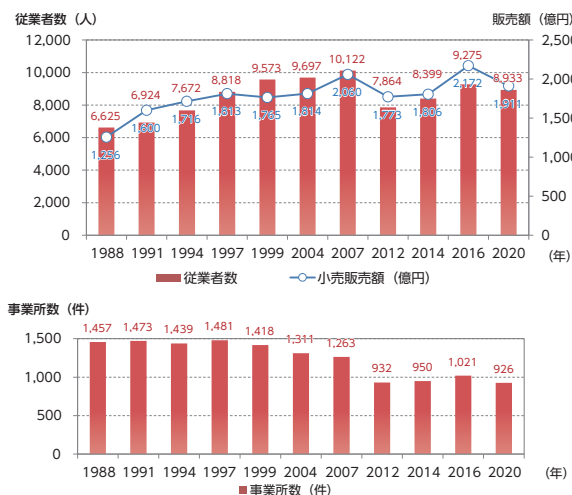
図① 製造業に係る従業者数、製造品出荷額等、事業所数推移 (工業統計、経済センサス、経済構造実態調査)



図② 小売吸引力 (商業統計)

●安城市の弱み

- ①小売業の従業者数がおおむね維持される一方、事業所数は減少していることから小売店舗の大型化が進み、身近な中小規模の小売店舗が減少しています。
- ②市全体での観光入込客数は、周辺都市と同水準であるものの、新型コロナウイルス感染症の影響等により減少しています。
- ③国道23号及び県道47号では渋滞が発生しており、将来に渡っても交通混雑が予想されています。
- ④需要に対応できていない広域的道路網があります。
- ⑤市街地の外郭を形成する多車線道路ネットワークが未形成となっています。
- ⑥近年大規模既存集落外縁部における開発の進行により、集落コミュニティが損なわれ、集落の賑わいが低下しています。



図① 小売業に係る従業者数、小売販売額、事業所数推移 (商業統計、経済センサス)

「活きる力をつくる 都市活力」分野における基本的課題…産業振興、広域交流、都市景観 等

安城市の強みから、【強みを伸ばす考え方】

- ・リニアインパクト（新幹線三河安城駅の位置づけの変化等）を活かした交流人口の拡大
- ・日本有数のものづくりポテンシャルや広域的な交通利便性を活かした工業・物流機能の集積強化
- ・賑わいを集める、地域固有の歴史文化資源や田園景観等の資産活用、回遊性の強化
- ・賑わいを集める、街並み景観づくりの活動を市全域へと波及

安城市の弱みから、【弱みを克服する考え方】

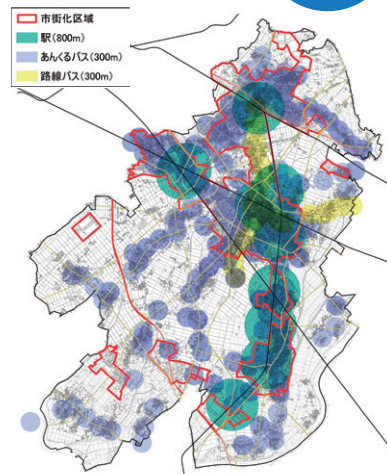
- ・商業業務機能やサービス業を始めとする第3次産業の集積強化（多様な産業構造への転換促進）
- ・産業を活性化する、物流等産業活動の円滑化に資する広域的道路網、及び多車線道路ネットワークの形成
- ・集落を活性化する、大規模既存集落外縁部におけるスプロール化抑制による集落コミュニティの再形成

視点4 都市生活

安心をつくる

◎安城市の強み

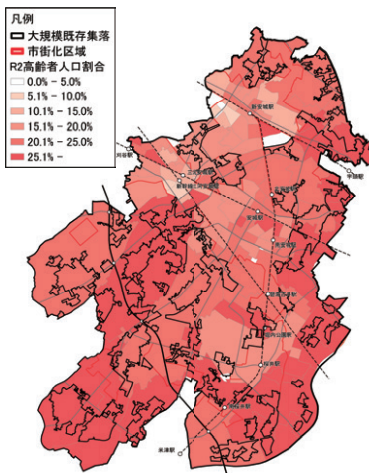
- ①市街化調整区域においても大規模既存集落を中心に公共交通の利用圏域にカバーされており、市街化区域へアクセスすることが可能な状況となっています。
- ②一部地区において、まちづくり憲章及びまちづくり指導要綱を定めているほか、事前復興まちづくりを実施しています。
- ③近年、自動車産業を中心とした工場立地や住宅開発などにより、農・工・商のバランスがとれた複合都市として発展しています。
- ④市全体では空き家率は減少傾向であり、県平均を下回っています。



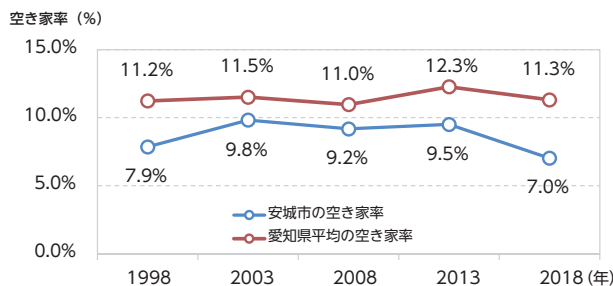
図① 生活利便性評価マップ
【公共交通近接性】

●安城市の弱み

- ①市街化調整区域の集落地の一部で人口・世帯数が減少、高齢化が進行しています。
- ②市街地内には狭あい道路等が残る未整備市街地が存在しています。
- ③市域南東部を中心に、南海トラフ地震等による人的被害や建物被害等が予測されており、被害予測に基づいたまちづくりを進める必要があります。
- ④洪水による浸水が市北部や市南部、市南東部等を中心に想定されています。
- ⑤駅周辺の市街地に老朽建物が多く分布する傾向となっています。
- ⑥都市的低未利用地のうち、約7割が住居系用途地域に存在しています。



図① 大規模既存集落における高齢者の割合
（R2国勢調査 小地域）



図⑦ 空き家率比較（住宅・土地統計調査）

「安心をつくる 都市生活」分野における基本的課題…コミュニティ・多世代交流、防災 等

安城市の強みから、【強みを伸ばす考え方】

- ・もしもの時に支えになる、地域防災力を強める住民主体の地域活動など、地域防災力の下支えとなるコミュニティの再生・活性化
- ・普段の暮らしの支えになる、バランスよく立地した都市機能・生活機能の維持、充実
- ・防犯、防災への安心を確保する、多様な世代の人口定着につながる空き地や空き家の有効活用
- ・コンパクトなまちの形成

安城市の弱みから、【弱みを克服する考え方】

- ・まちの安心を高める、未整備市街地や狭あい道路等の解消・改善による市街地の防災性強化
- ・暮らしで安心できる、高齢化の進む既成市街地や集落地等での就労世代の定住促進と地域コミュニティの再生・活性化
- ・将来の安心を確保する、災害危険性の高い区域での無秩序な開発の抑制
- ・浸水が想定されている市街地等においては避難体制の強化を図るとともに、防災・減災対策を促進

視点5 都市環境

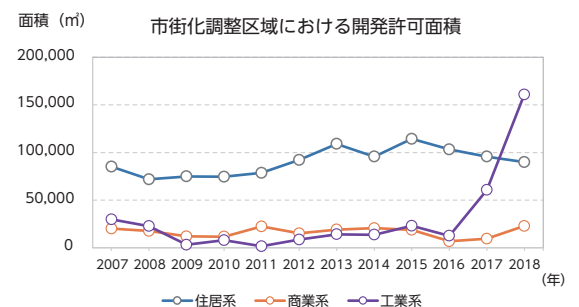
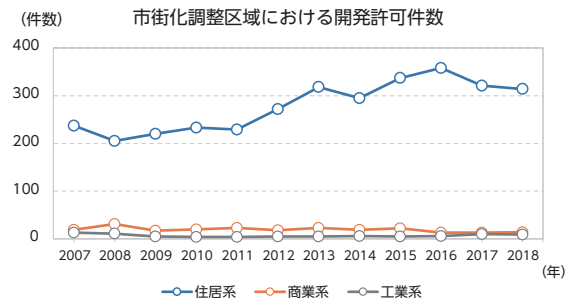


◎安城市の強み

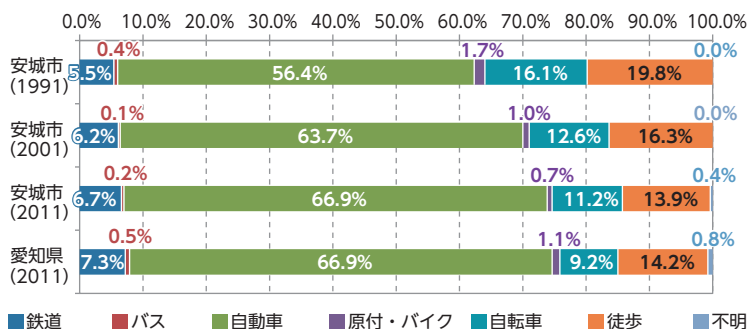
- ①市街化調整区域に一団のまとまりある優良農地が広がっています。
- ②あんくるバスの利用者数は2020年度に一度減少したものの、2021年度時点で利用者数は1,214人/日、443,073人/年と減少前の8割程度に回復しています。
- ③明治用水緑道を活用した自転車ネットワークの整備が進行しています。

●安城市の弱み

- ①市街化調整区域における開発が進んでいます。
- ②代表交通手段構成比は継続して自動車が増加し、自転車・徒歩が減少しています。
- ③都市公園の市民一人当たり整備水準（5.45㎡/人）は、全国平均（10.4㎡/人）及び県平均（7.9㎡/人）と比較して低いといえます。



図① 市街地調整区域における開発許可
(都市計画基礎調査より)



図② 代表交通手段構成比 (PT調査)

「心地よさをつくる 都市環境」分野における基本的課題…環境負荷の低減、自然環境保全 等

安城市の強みから、【強みを伸ばす考え方】

- 心地よく利用できる、公共交通網の維持・サービス水準の強化（再掲）
- 自身の健康を心地よく感じる、歩いて暮らしやすいまちづくりに向けた歩行者・自転車ネットワークの拡大・機能充実
- やすらぎを感じる、身近な公園・緑地の維持・保全、緑化の促進、市街地内農地の維持・活用
- これからもやすらぎを感じることができるよう、まとまりある良好な農地・緑地の保全

安城市の弱みから、【弱みを克服する考え方】

- 市街化調整区域における無秩序な開発、都市機能立地の抑制（再掲）
- 心地よい環境をもたらす、自動車中心の交通移動手段の転換促進